勝沼中学校

自ら考え，判断し，行動できる勝沼中生徒の育成
～　互いに認め合い，支え合う集団づくりを通して　～

Ⅰ　主題設定の理由

中央教育審議会『新しい義務教育を創造する（答申）』の中で「子どもたち一人一人が，人格の完成を目指し，個人として自立し，それぞれの個性を伸ばし，その可能性を開花させること，そして，どのような道に進んでも，自らの人生を幸せに送ることができる基礎を培うことは，義務教育の重要な役割である。自らの頭で考え，行動していくことのできる自立した個人として，変化の激しい社会を，心豊かに，たくましく生き抜いていく基盤となる力を，国民一人一人に育成することが不可欠である。」という記述がある。変革の時代，混迷の時代，国際競争の時代であるからこそ，一人一人の人格形成と国家・社会の形成者をいかに育成していくか，子どもたちに自ら考え，判断し，行動できる力，すなわち「生きる力」をどのように身に付けさせるかが，今の学校現場に求められている。このことは，新学習指導要領に対応し，山梨県教育委員会が示す「やまなし教育振興プラン」及び甲州市が推進している「確かな学力育成プロジェクト」にも大きく関わるものと考える。

昨年度の研究主題“互いに高め合う「学級集団づくり」”をベースに，さまざまな角度から「生きる力」の育成にアプローチする研究を推進したい。学校生活において，さまざまな集団活動が展開されている。中でもその基礎である「学級集団づくり」については，Ｑ－Ｕ検査を活用しながらより良い集団づくりを継続して目指したい。また「学年・学校集団」「学習活動における小グループ（小集団）」さらには「部活動集団」等々，さまざまな集団活動において，互いに認め合い，支え合う集団づくりを追究するとともに，子どもたちが「音・声」による自己表現力を活用しながら，主体的に考え，活動することにより豊かな心を育て，「生きる力」の育成を目指したい。

Ⅱ　研究の内容

1　学年別研究会

学年の実態，現状を分析しつつ，より良い学級・学年集団づくりをする手立てを考えてえていく。Ｑ－Ｕ検査の分析を行い，集団作りに生かしていく。

2　教科別研究会

・自己表現力の育成　　・新学習指導要領の内容についての学習を実施

・個に応じた指導の実践（少人数，習熟度別授業）

習熟度別授業，ティームティーチングの実践，小グループの活用

・言語活動の充実，国語力，読解力向上に関する研究（国語科，全教科）

・基礎，基本の重視，基礎学力の向上に関わる研究と実践（全教科，特に５教科）

３　領域別等研究会

・道徳教育の充実　　・特別支援教育の実践　　・読書活動の推進

４「確かな学力」育成プロジェクトとの関わり

プロジェクトの関わりの中で，校内研究組織に３つの分科会を設置した。

（１）授業づくり・授業改善部会

・年３回実施する授業案の検討（英語科・理科・道徳）

・「確かな学力」の育成にむけた授業づくり・授業改善

・どんな視点で授業を組み立てるか,およびその検証のための授業後研究会の運営を担当する。

（２）集団づくり部会

・学級，学年集団づくり，および部活指導を含めた集団づくりなど，さまざまな実践を校内研究会で紹介し，全体研究会で協議する。

・学級通信や学年通信の紹介

・Ｑ－Ｕ検査の分析をまとめ，取組（対策）を推進する。

（３）保護者・地域と連携部会

・「家庭学習の手引き」の活用方法案など提示し，全体研究会で協議する。

・（昨年度の反省をもとに）家庭学習の定着を図る取組をスタートさせる。

Ⅲ　成果と課題（職員アンケートをもとに）

＊各研究会で，教師１人ひとりが発言し，意見交換することにより，目指す教育像が見えるとともに，教師間の共通理解を図ることができた。

＊どのような手法で行えば，本校生徒に還元できるかを考え，設定された研究会だったので，とても有効な校内研究だった。

＊Q-U の分析をしたことで，生徒の実態を客観的データとして把握し，自分のクラスの生徒の様子をつかむことができた。

＊研究授業や普段の実践の発表により，先生方の意識，技術等多くのことを学ぶことができた。

＊市「確かな学力」育成プロジェクトとリンクした校内組織運営は，今後さらに有効になると思われる。

＊昨年度の課題をもとに,「家庭学習」に関する学習会を開き，実際に取組をスタートさせることができた。

＊さまざまな場面での「集団づくり」に一生懸命取り組むことができた。

おわりに…　多忙な中であるが,「日々の“わかる授業”をどう仕組むか」が私たちの使命であることを再確認し，日常的に授業実践を互いに公開しながら，私たち職員がより認め合い，より支え合う職員集団を示すことにより，自ら考え，判断し，行動できる勝沼中生徒の育成へつながるものと確信する。

（　研究主任　　立川　慶樹　）